

- 1 群馬県が主催するカンファレンスイベント。県内外から各分野のトップリーダーが集まり、地域が直面する様々な課題について議論を展開する。
- 2 開催日：令和6年12月14日(土)～15日(日) 2日間
開催場所：草津温泉（群馬県吾妻郡草津町）
- 3 参加者数：約1,100名（延べ数）
- 4 主なプログラム：

<特別講演>

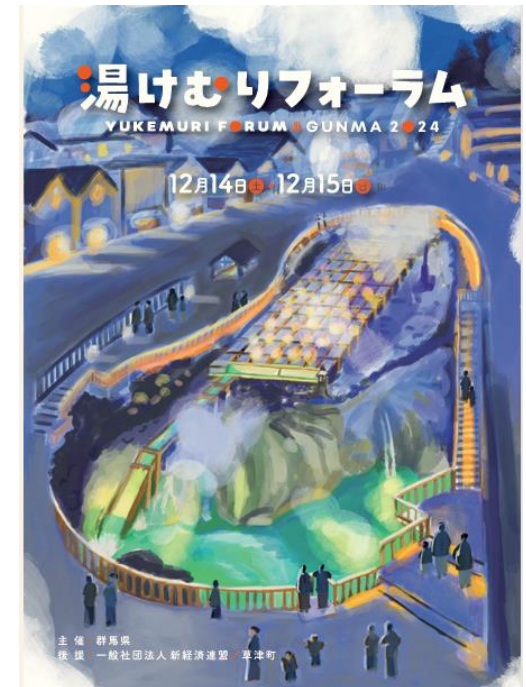
「21世紀・世界の構造変化と日本の針路日本再生の道筋と群馬県の役割」
一般財団法人日本総合研究所 会長 寺島 実郎

<テーマ分科会>

- ・デジタルクリエイティブ分科会
- ・**SEL分科会**
- ・群馬パーセントフォーアート分科会 など

<エンターテインメントイベント>

- ・コンサート、ミニライブ など



SEL分科会 「Student Agencyを発揮させる教育とは」

第1部 登壇者スピーチ



田熊 美保
OECD教育スキル局
シニア政策アナリスト



オリー・ブレイ
スコットランド教育庁戦略部長



高橋 みゆき
群馬県立伊勢崎高等学校長
スコットランド共同研究指定校



伊藤 駿
京都教育大学講師
スコットランド共同研究助言者

第2部 パネルディスカッション

- ① エージェンシーを発揮する子どもの姿とは
- ② エージェンシーを発揮する子どもを育む教育の課題とは
- ③ エージェンシーを発揮する子どもを育む教育の課題解決に向けて

湯けむりフォーラム2024 SEL分科会

「Student Agencyを発揮させる教育とは」

趣旨説明

群馬県教育委員会
教育次長 栗本 郁夫

日本(群馬県)の教育の長所

○全ての子どもへの教育の充実

 義務教育、高校教育制度の充実

○基礎学力の確実な定着

 統一カリキュラム・優れた教科書、教師の努力と高い指導技術

○規範意識、協調性、社会性を育む全人的な教育

 生徒指導、相談体制、道徳の充実

日本(群馬県)の教育の課題

▲児童生徒の自己肯定感・有用感、主体性が低い

▲児童生徒の思考力・判断力・表現力、創造性、
社会生活への活用力に課題

(原因) 教師主導の授業、子どもに失敗させない、
大人が子どもに手をかけすぎたこと等



社会情動的なスキルのうち、**主体性の育成**を
メインに取り組むことが必要

群馬県教育ビジョンとしての取組

第4期群馬県教育振興基本計画

◎ エージェンシーを発揮して
主体性を高め、自律した
学習者になることを目標

エージェンシーとは（群馬県での定義）
人が誰しも生まれついて持っている自分と社会を
より良くしようと願う意志、原動力

自分で考えて、自分で決めて、
自分で動き出す

第4期 群馬県教育振興基本計画
群馬県教育ビジョン
計画期間：2024年4月～2029年3月

最上位目標 自分とみんなのウェルビーイングが重なり合い、高め合う共生社会へ向けて
—ひとりひとりがエージェンシーを発揮し、自ら学びをつくり、行動し続ける「自律した学習者」の育成—



相談していいし、
助けを求めても
いいんだよ

「学ぶ」って
楽しい

「ナナメの関係」や
「ゆるいつながり」も
大事なんだよ

リアルでも、
デジタルでも
色々なつながり方
でいいよ

試行錯誤しよう。
失敗してもいいのだと知ろう。
それが自分を強くしてくれるよ。

知らないことを
知るの楽しいよ

社会をつくるのも変えていくのも
「誰か」じゃなくて「自分」だよ。

動き出してる
仲間もいるよ

自分も、みんなも、幸せになろう

— これからの時代を生きていく私たちに必要なこと —
自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す

人は、誰しも、生まれついて **自分と社会を
より良くしようと願う意志や原動力を持っている。**

- 一人一人が、自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す「自律した学習者」であること
- 子どもと大人が、お互いを主体として認め合い、協力しながら社会を作っていくこと
- 地域と、学校と、家庭が、協力して学びの場を作り、共に学び続けていくこと

現状の課題

- 私たちの（子どもたちの）主体性や社会参画への意識が弱いとされるのは何故か？
- 良かれとの思いから、失敗しないように先回りして与えすぎる教育が、生まれつき
持っていた自ら成長する力（エージェンシー）を損なっていたのではないか？
- これまで以上に先行きが不透明とされる時代に必要な力は、どんなものなのか？

2024年3月 群馬県教育委員会

6

群馬県教育ビジョンの周知と具体的な取組

- 市町村教委との共通理解、リーフレット配布、
県内小・中・高・特別支援学校長と教育長の懇談等
- 指定校（高校3校、中学校4校）での実践
- スコットランドとの共同研究及び
OECDとの連携
- 教師エージェンシーを発揮できるようにするための
働き方改革の推進



2024.10.11・12 OECDグローバルフォーラム
群馬会場の様子

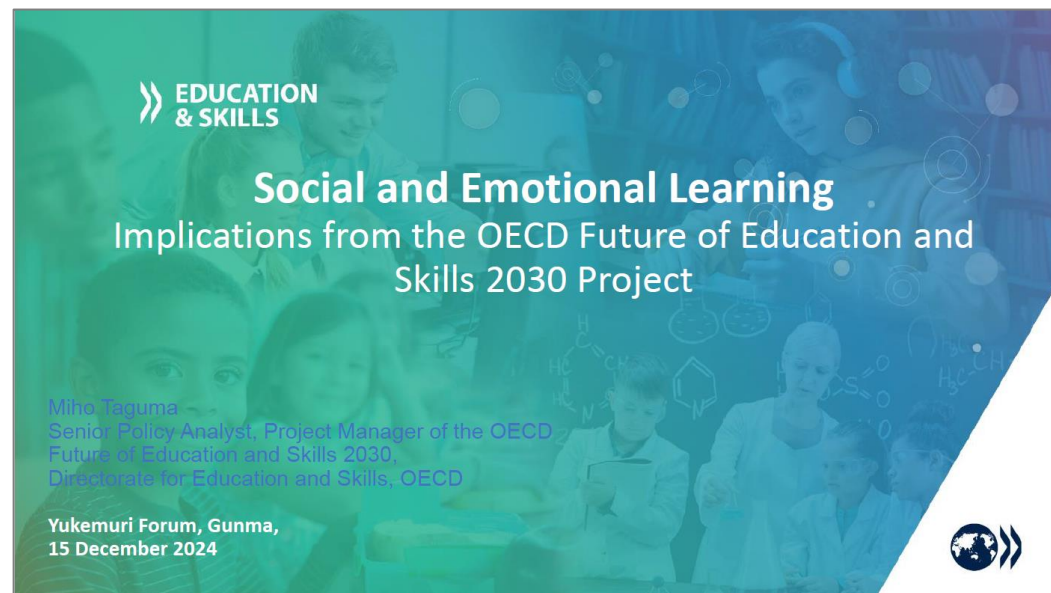
第1部 登壇者スピーチ



田熊 美保

OECD教育スキル局

シニア政策アナリスト



- ・ 議論の前提となる話題を提供
- ・ SEL がなぜ必要なのか、世界の潮流を紹介
- ・ 現代における様々な社会課題について、民主主義の担い手の育成
- ・ 学術的に高いパフォーマンスを見せるが、失敗を恐れる日本の子ども達の実態

第1部 登壇者スピーチ



オリー・ブレイ
スコットランド教育庁戦略部長



- ・ スコットランドの教育についての説明、カリキュラムフレームワークの紹介
- ・ 幼少期の遊びを中心とした教授法
- ・ 創造的な体験の中で生徒の姿をとらえることの意義
- ・ どのようにエージェンシーを刺激し育むかは学校教育全体のアプローチが重要

第1部 登壇者スピーチ



高橋 みゆき

群馬県立伊勢崎高等学校長
(SAH指定校)

スコットランド共同研究指定校

Student Agency を発揮させる教育とは

～問いを立てる学び、探究活動を核とした
Agencyの育成～

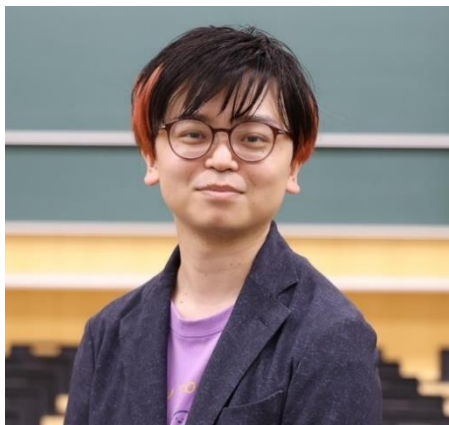
群馬県立伊勢崎高等学校

校長 高橋 みゆき

1
0

- ・「生徒がAgencyを発揮する学校」を目指した取組
- ・チャレンジし続ける力、多様性を認め、共に社会を創造する力、常識や既成概念にとらわれず、物事の本質を見極めようとする力を備えた「シン探究人」の育成
- ・取組の継続による生徒の変化
- ・スコットランドの学校への訪問、連携

第1部 登壇者スピーチ



伊藤 駿
京都教育大学講師
スコットランド共同研究助言者



- ・ Student Agencyという言葉の定義
- ・ Student Agencyを育む上で「失敗できる環境」の重要性
- ・ 日本の学校におけるAgency育成の現状分析
- ・ 子ども達に任せる指導への挑戦

第2部 パネルディスカッション

- ① エージェンシーを発揮する子どもの姿とは
- ② エージェンシーを発揮する子どもを育む教育の課題とは
- ③ エージェンシーを発揮する子どもを育む教育の課題解決に向けて



第2部 パネルディスカッション

コメント（一部）

- ・子ども達は、自分の考えを否定されない環境において、伝え合う機会を経験することで、子ども達の中にロールモデルを見つけることができる。
- ・エージェンシーに必要な要素として、Voice（声を出せる）、Choice（選択できる）、Ownership（学びに対する責任）の3つがある。
- ・タイパ（タイムパフォーマンス）に若者の姿が表れている。
- ・エージェンシーは言葉で理解するよりも、子どもの姿から理解する。
- ・教師は、子ども達に権限を与えることで管理できなくなると不安に思う。ただし、エージェンシーを発揮できるようにするには機会を与える必要がある。
- ・エージェンシーは様々な側面をもち、積み上げていく（年齢とともに育つ）ものではない。

まとめ

- ・生徒エージェンシーを発揮できる学校づくりに向けた専門家の知見が得られた。
- ・子ども達の環境づくりには、心理的安全性を確保し、声を上げ、選択できる環境が必要である。
- ・子ども達を信じて、任せて、学びをつくるという群馬県の目指す方向が確認できた。

当日の動画は
こちら

【第1部】



【第2部】

